

解答

一

- ① ちあん ② かいこう ③ きょしゅう ④ しえき ⑤ 軽快 ⑥ 血相
⑦ 決行 ⑧ 根幹

二

- | | |
|-----|------|
| 2 | 1 |
| ① 温 | ① 16 |
| ② 点 | ② 8 |
| ③ 利 | ③ 13 |
| ④ 山 | ④ 9 |

三

- 問一 辞書は荒木を構成する、ほとんどすべてだった。
問二 ウ
問三 イ
問四 定年になる(から)
問五 親愛とさびしさと行く手に対する不安
問六 気長で、細
問七 俺以上に、辞書を愛する人間を見つけること
問八 編

四

- 問一 A ウ B E C ア D イ
問二 「無言館」の絵を画学生さんたちの手紙や写真などといっしょにみてゆく(こと)
問三 自由
問四 同じように味わうこと
問五 一生懸命生命をかけてうちこめる目的
問六 イ
問七 希望とよろこび
問八 ア

解説

三

- 問三 — 部③には鉛筆と箸を間違えてしまう先生の様子が描かれています。そば屋のテレビから流れる音声に耳を傾け、聞きなれない単語や、変わった言葉の用法があったら、すぐに用例採集カードに書きとめていることから、「集中すると周りが見えなくなる」という記述を含む、選択肢イが選べます。
問七 — 部⑦の後に着目します。俺が辞書編集部員として果たすべき役割は、念願だった新しい辞書を完成させることばかりではなく、俺以上に、辞書を愛する人間を見つけることだったのだ。と述べているので、「新たな使命」として「俺以上に、辞書を愛する人間を見つけること」がぬき出せます。

四

- 問六 — 部⑤の前にある「おいしいものを」→「多いことでしょう。」で挙げている例に着目すると、自分の好きなことをしながら楽しく過ごす内容であることがわかります。画学生さんたちの絵のように人生の目的になるようなものとは異なることがわかるので、「将来のために」という記述を含む選択肢イはあてはまりません。
問七 — 部⑥を含む段落の前に画学生さんたちの様子が描かれています。画学生たちの「絵を描くよろこび」について、「毎日毎日、こんどはこういう絵を描こう、こんなものを描いてみよう、という希望とよろこびにあふれて生きていたのです。」と述べていることから、同じ意味の言葉は「希望とよろこび」であることがわかります。